



Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 山中浩司教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2025, 51, p. 209-214
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/100828">https://doi.org/10.18910/100828</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【定年退職教授の履歴および主要業績】

やま なか ひろ し  
山 中 浩 司 教授



やま なか ひろ し  
山 中 浩 司 教授

1982 年 3 月	京都大学経済学部卒業
1984 年 3 月	京都大学大学院経済学研究科修士課程修了
1988 年 3 月	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学
1990 年 4 月	大阪大学教養部講師
1994 年 4 月	大阪大学人間科学部講師
1996 年 4 月	大阪大学人間科学部助教授
2000 年 4 月	大阪大学大学院人間科学研究科助教授
2007 年 4 月	大阪大学大学院人間科学研究科准教授
2009 年 3 月	大阪大学大学院人間科学研究科博士号学位取得
2010 年 4 月	大阪大学大学院人間科学研究科教授
2025 年 4 月	大阪大学名誉教授（予定）

山中浩司教授は、1982 年 3 月京都大学経済学部を卒業後、1984 年 3 月に京都大学大学院経済学研究科修士課程修了、1984 年 10 月から 1985 年 9 月までのフライブルク大学（西ドイツ：当時）歴史学科への留学を挟んで、1988 年 3 月に京都大学大学院経済学研究科博士後期課程を単位取得退学された。1990 年 4 月に大阪大学教養部講師に任用され、1994 年 4 月に人間科学部講師に配置換、1996 年 4 月に助教授に昇任（2007 年 4 月より准教授）、2010 年 4 月に教授に昇任された。この間、2009 年 3 月に大阪大学より博士号（人間科学）を取得されている。その後、大阪大学大学院人間科学研究科の副研究科長・附属未来共創センター長（2020～2022 年）、大阪大学教育研究評議会評議員（2020～2022 年）などを歴任され、2025 年 3 月 31 日限りで定年退職される。

山中教授は、1990 年に本学の旧教養部に着任されて以来、約 35 年もの長期にわたって人間科学部・大学院人間科学研究科を中心に学生教育と研究活動の両面に多大な貢献を行われた。同教授は、科学思想史、医療社会史、医療社会学を専門とされ、技術社会史的・文化史的なアプローチを中軸として、社会学理論の厚みある理解を背景に、優れた実証研究を重ねてこられた。研究活動の場は、日本社会学会、科学技術論学会、ドイツ現代史学会などの国内の学会にとどまらず、The European Association for the History of Psychiatry、European Association for the Study of Science and Technology、Society for Social Studies of Science 等の学会員として国際的にも活躍されている。

研究者としてのキャリア初期には精神医学史、とくに 19 世紀初頭のプロイセンの精神医学の黎明期に関する研究に取り組み、その国際的にみても希少な成果は主著のひ

とつ『医師と回転器—19世紀精神医療の社会史』（昭和堂、2011年）に結実している。本書では、フライブルク大学留学以来培われたドイツの研究者との学術交流を背景に、ドイツ語原典の資料が大部にわたって収集され、丹念な分析考察が加えられており、そのオリジナリティは高い評価を受けている。この研究にみられた技術文化史・技術社会学的な視座は、精神医学史を離れた研究にも受け継がれており、『医療技術と器具の社会史』（大阪大学出版会、2009年）では、聴診器や顕微鏡などの医療技術が主だった研究対象とされながらも、社会科学的テクノロジー研究全般にとって示唆に富む知見が提示されている。

医療社会学分野では、学内外および国内外の共同研究ネットワークを広げられ、その成果は編著『遺伝子研究と社会』（昭和堂、2007年）、『シリーズ人間科学5 病む』（大阪大学出版会、2020年）のほか、多数の論文として公刊されている。また、山中教授の指導院生・修了生との共著論文の公刊も、「医療現場における電子カルテの影響」（工藤直志との共著：『大阪大学大学院人間科学研究科研究紀要』35号、2009年）、「Practice of personalized primary prevention of lifestyle diseases」（竹田恵子との共著：『*Personalized Medicine*, 8 (2), 2011年）等々、積極的に進められ、大学院教育の一環としても優れた効果をあげている。

より近年は、医療社会学的な問題関心をもとに、男性学・ジェンダー論の分野にも研究の幅を広げられ、編著『とまどう男たち 生き方編』『同 死に方編』（大阪大学出版会、2016年）などの研究成果を公表されている。この面では、2018～2020年に大阪府の男女共同参画審議会委員を務められるなど、社会学連携活動にも貢献されている。

教育面では、「文化社会学」「医療社会学特講」などの講義科目、演習、実験実習科目を担当され、多数の学部生と大学院生の指導にあたられてきた。2007年には、大阪大学共通教育賞を受賞されている。適確な助言と授業外にもおよぶ丁寧な指導には学生間でも定評があり、優れた研究者を数多く輩出されてきた。また、一般企業等に就職した卒業生も、山中教授のお人柄を慕って研究室を訪れにくる姿がよく見かけられた。

研究科内においては、評価委員会委員長、図書室長、副研究科長等を歴任され、2020年からは人間科学研究科附属未来共創センター長として数多くのプロジェクトをマネジメントされるなど、運営管理に尽力されてきた。

学外での功績・活動としては、社会思想史学会監事（2004～07年）、日本保健医療社会学会評議員（2023年～現在）、科学社会学会会長（2022年～現在）などの要職を務められ、日本の学術界の発展に貢献された。また社会貢献活動の面では、京都府の包括外部監査補助人（2004～05年）、特定非営利活動法人公益セクター調査研究所の専門アドバイザー（2005～06年）、大阪府男女共同参画審議会委員（2018～20年）、大阪府教育庁WWLコンソーシアム構築支援事業の運営指導委員（2019～22年）、吹田市男女共同参画審議会委員（2021年～現在）などを歴任されている。

以上のように山中浩司教授は、国内外での学術研究の発展、大阪大学と人間科学研究

科での教育および組織運営管理、そして社会貢献活動に大きく寄与してこられた。

## 主 要 業 績

## 著書

1. 大林信治・山中浩司（編），1999，『視覚と近代—観察空間の形成と変容』名古屋大学出版会.
2. 山中浩司（編），2005，『臨床文化の社会学—職業・技術・標準化』昭和堂.
3. 山中浩司・額賀淑郎（編），2007，『遺伝子研究と社会—生命倫理の実証的アプローチ』昭和堂.
4. 山中浩司，2009，『医療技術と器具の社会史—聴診器と顕微鏡をめぐる文化』大阪大学出版会.
5. 山中浩司，2011，『医師と回転器—19世紀精神医療の社会史』昭和堂.
6. 伊藤公雄・山中浩司（編），2016，『とまどう男たち—生き方編』大阪大学出版会.
7. 大村英昭・山中浩司（編），2016，『とまどう男たち—死に方編』大阪大学出版会.
8. 山中浩司・石蔵文信（編），2020，『シリーズ人間科学 5 病む』大阪大学出版会.

## 学術論文

1. 山中浩司，1994，「カントと二人の孫：合理主義哲学と社会構成主義」『ソシオロジ』42 巻 3 号：19–36.
2. 山中浩司，1997，「ニーチェにおける「ダーウィニズム」と「実験哲学」」『モルフォロギア』19 号：61–74.
3. Yamanaka, H., 2003, Scandal and Psychiatry in Early Nineteenth-Century Prussia, *History of Psychiatry*, 14 (2): 139–160.
4. Yamanaka, H., Takeda, K., 2011, Practice of personalized primary prevention of lifestyle diseases: associated problems and issues in Japan, *Personalized Medicine*, 8 (2): 215–224.
5. Ogasawara, R., Yamanaka, H. et al., 2022, Status of school health programs in Asia: National policy and implementation, *Pediatrics International*, 64 (1): e15146.

他 21 編